

# 大府東高校におけるマンガの描き方のレクチャーと成果

- 部活動の地域展開に紐付けて -

至学館大学健康科学部こども健康・教育学科  
谷岡 曜子

**キーワード：部活動の地域展開，部活動指導者育成，教材開発，情報デザイン，イラスト制作指導**

## はじめに

本学アスレチック・デパートメントでは、部活動の地域展開に関連する教育支援および教材開発に取り組んでいる。

部活動の地域展開は、教員の超過勤務を是正するため、政府通達に基づき部活動の指導母体を学校から地域へ移行する取り組みを指す。それぞれの地域とは市町村を指し、市町村には、部活動の地域展開を迅速かつ安全に行うため、整備および指導者の公認体制を構築することが求められている。これに際し大府市においては、部活動の指導者の研修を行い公式の認定を出すという過程を本学に委託している。

本稿では、本学アスレチック・デパートメントにおいて筆者が担当した、地域の部活動指導者育成教材のアニメ化の取り組みについて報告する。また、大府東高等学校との連携による動画挿入用イラスト制作の過程についても併せて述べる。

## 大府東高校との協力に至るまで

### これまでの部活動の地域展開の教材とその問題点

部活動の地域展開においては、部活動の指導者を小中学校の教員から、地域の部活動指導者に移行することが求められている。これまで小中学校の教員免許のみで指導に携わっていた教員が継続して指導を行う場合には、地域の部活動指導者としての公認を新たに取得する必要がある。公認を受けるためには、部活動指導者として必要な知識を習得するための、研修を受講することが求められる。

これに際し自治体では、教材の制作を様々な機関へ委託する動きがある。大府市では、その業務を本学が受託している。一方、他の自治体ではスポーツクラブ等に指導者の育成や派遣を委託する例も見られ、委託先は多様である。

しかし、企業体への委託には課題も指摘されており、研修内容の不透明さや指導者派遣の不履行といった問題が一部の自治体で報告されている。

このような背景から、教材作成には複数分野の専門家が関わる必要があり、専門家を擁する大学が教材制作を担う例が増えている。公開情報では、大阪体育大学、東京学芸大学、周南大学などがその事例として確認できる。

### 本学の教材の独自性

本学アスレチック・デパートメントでは、科学的な構成に基づく網羅的内容の動画教材を制作している。他大学の教材と比較すると、内容を簡潔にまとめている点に特徴があり、主要事項を短時間で理解可能な構成となっている。これにより、全ての内容を概ね半分程度の時間で受講できる。現在、愛知県内の複数自治体で採用が進んでおり、今後は収益化も見込まれている。

### なぜアニメ化か

上記を踏まえ、既存の教材動画をより受講しやすく再構成し、学習効果を高めることを目的としてアニメ化を進めている。ここでいうアニメ化とは、全ての場面においてキャラクターが動くようなものではなく、先生役と生徒役のキャラクターを用いた紙芝居型の説明動画である。こうしたキャラクターを用いた説明動画は、YouTube等で一般化しているレクチャー形式に近いものである。

Pekrun<sup>1)</sup>によれば、学習による達成感と、学習内容が自分にとって価値があると感じることはポジテ

イブな感情を生み、ポジティブな感情（例えば楽しみなどの）はより学習のパフォーマンス（成績）を高める。また、このポジティブな感情と達成感・価値を感じることは、双方向の因果関係がある。

つまり、達成感と学習内容に価値を感じることは、またそれによってポジティブな感情を抱くことは双方向のものであり、まず“楽しい”などのポジティブな感情を抱いた状態に学習者を置くことは、達成感と学習内容に価値を感じやすくすることに繋がる。結果として学習効果と成績に良い影響を与えると述べている<sup>1)</sup>。

さらに Pekrun<sup>1)</sup>では、学習者の達成感情に介入する 5 つの方法が示されているが、本企画はそのうちの 2 つ目である”situation-oriented regulation”<sup>1)</sup> (pp. 17–18) の効果を狙ったものである。アニメという楽しみのためのツールを経由することによって、楽しみを感じやすい環境を構築。抽象的な説明を受けることで感じる不安や退屈といったネガティブ感情を軽減し、学習者の関心を内容理解へと向けることを意図している。

## 大府東高校への協力の要請

本学の近隣にある大府東高校には、文芸部が存在し、マンガとイラストの制作に長けた生徒を擁している。今までにまんが甲子園に 5 回出場し、2022 年の第 31 回大会においては「やなせたかし賞」を受賞するなどの実績を持つ。

アニメ教材の制作にあたっては、解説場面の理解を補助する多数のイラストが必要となったが、当時アスレチック・デパートメント内で素材制作を担当できる者は筆者のみであった。そのため、同デパートメント所属の鈴木達見の紹介により大府東高等学校を訪問し、文芸部生徒にイラスト制作を依頼した。協力いただいた文芸部所属生徒および有志の生徒 5 名には、深く謝意を表す。

なお、本稿に掲載した写真および学生・生徒による制作物については、教育紀要への掲載を目的として、当該校および関係者の同意を得た上で使用している。

## 制作の内容と報酬

### 制作のプロセス

本企画の制作プロセスは以下のようなものである。

- 台本の再構成
- 先生役と生徒役のキャラクターデザイン
- アニメ用キャラクター立ち絵の制作
- 声優の募集
- 大府東高校へのイラスト制作依頼★
- イラスト制作レクチャー★
- 出来上がり原稿の添削★
- 録音編集
- 動画素材の制作
- 動画編集

動画編集については、作業量が多く筆者の他業務に支障をきたすおそれがあったため、動画制作・編集会社である株式会社エルフィンに外部委託した。その他の業務については筆者が主体となって遂行し、声優の選出や編集業務を担う協力会社の選定に関しては、本学アスレチック・デパートメント内の会議での検討を経て決定した。制作プロセスのうち、大府東高校との連携によって成り立つ業務には星印(★)を付しており、以下ではこれらの業務について順を追って説明する。

### 台本の再構成

部活動の地域展開に関連して、アスレチック・デパートメントでは既に地域の部活動指導者育成を目的とした実写動画教材を多数制作している。アニメ化にあたっては、これらの実写動画で使用された台本を、先生役と生徒役のキャラクターによる対話形式に再構成する必要があった。再構成は、1 本目の教材動画を担当した鈴木達見の監修のもと、伝達すべき内容が失われないよう配慮しながら行った。

本企画では、先生役と生徒役としてイタル(図 1 左) およびマナブ(図 1 右) の 2 名のキャラクターを設定した。これらのキャラクターの声優については、大府東高校でのレクチャーと並行して本学学生から募集を行い、オーディションを経て応募者 4 名の中から 1 名ずつ選出した。

再構成した台本を基に、イラストによる説明が効果的と判断される場面を選定しリスト化したうえで、大府東高校文芸部の生徒にイラスト制作を依頼した。イラストは計 10 枚であり、事情により担当枚数は異なるものの、平均して 2 枚程度を制作してもらった。なお、イラストの具体的なリストについては、動画視聴に金銭の授受が伴う点およびイラストの名称から動画内容が推測される可能性がある点を踏まえ、本稿では掲載を控える。



図 1 アニメ声優募集のポスター

至学館大学生から、部活動の地域以降アニメの解説キャラクターの声優を募集した際のポスター。生徒役のイタル（左）と先生役のマナブ（右）に各 1 名の声優を募集し、4 名の応募者の中からオーディションで公式声優が選出された。

## 訪問と依頼

本件に関して初めて大府東高等学校を訪問したのは 2024 年 12 月 28 日であり、その後計 6 回の訪問を実施した。各訪問の内容は以下のとおりである。

- 初回挨拶と協力の依頼
- イラスト制作レクチャー（キャラクターデザイン：等身と関節の接続）
- イラスト制作レクチャー（背景：透視図法の描き方）
- イラスト制作レクチャー（背景：キャラクターとの合わせ方）
- イラスト制作レクチャー（情報デザイン：どこに重要な情報を配置するか）
- 協力のお礼と添削指導

イラスト制作レクチャーは、大府東高等学校文芸部に所属する生徒、あるいは所属外で協力を申し出た生徒を対象として、制作に先立ち必要となる基礎的知識を教授したものである。添削指導については、主に長期休暇中に制作されたイラストの提出を受け、それぞれの作品が伝達すべき情報をより明確に示せるよう、表現上の改善点を助言した。

これらのレクチャーおよび添削指導は、筆者が連載漫画家として活動した経験を踏まえ、本件への協力に対する謝意として実施したものである。レクチャー実施の案内後、訪問当初は 1 名であった文芸部員に加えて、最終的には所属外の生徒を含む 5 名が協力を申し出た。

## レクチャーの詳細

レクチャーでは、実際のイラスト制作において高校生がつまずきやすい点に焦点を当て、基礎的な知識を中心に説明した。今回のイラスト制作のように、情報伝達を目的とした制作では、描画技術以上に情報デザインの視点が重要となる。すなわち、「何を」「どのように」伝達するのかを明確化する必要がある。情報デザインの観点では、視線の流れや注目点の配置が一定のパターンに従うことが知られており、これらを理解することによって、要素配置の適切さが担保される（図2）。

また、本件では人体を描く場面が多く含まれたため、関節や筋肉のつき方といった美術解剖学の基礎について解説した。さらに、自身や周囲の人物の動きを観察して描く方法を紹介し、観察に基づく制作の重要性を確認した。

イラスト制作はキャラクター描画のみでは成立せず、背景描画の習熟度が中級者への到達点となる。背景を適切に描くためには、①キャラクター描画、②背景描画、③両者を同一のアイレベル上で統合する、という三つの要素への理解と技能が求められる。

アイレベルは透視図法における基本概念であり、人工物や自然物を遠近法に基づいて描く際に用いられる。これはイラストや絵画だけでなく、建築・インテリアデザインにも応用される。1枚の図版における視点の高さは基本的に1つに定まるため、キャラクターと背景のアイレベルが一致していない場合、鑑賞者に強い違和感を与える（図3・図4）。

この問題を回避する方法としては、①描画開始時にアイレベルを設定する方法と、②キャラクター描画後にアイレベルを推定し、それに基づいて背景を描画する方法の二つがある。高校生はキャラクター描画に慣れている傾向があるため、本レクチャーでは主として後者の方法を扱った。

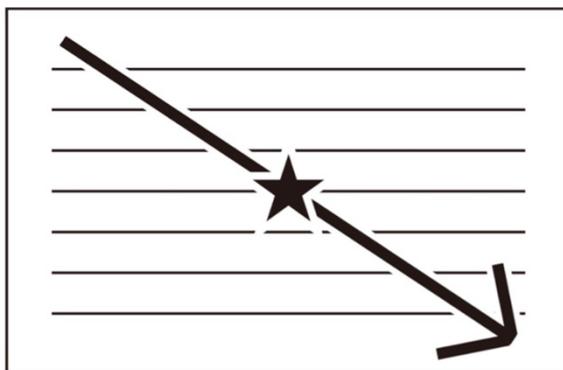


図2横書き文章を基準とした視線の通過方向

芸術工学の中でも、情報デザインにおいて文字が図内に存在する場合、文字の読解方向に視線の移動は大きく影響される。図2のように横書きの文章である場合の、視線の動きを矢印、最も注目が集まる点を星印で示した。

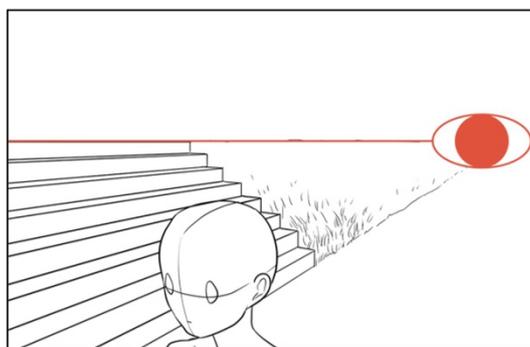


図3アイレベルに従う背景とキャラクター

アイレベルとは、その絵を見ている人物の目の高さにある、水平線のことである。このイラストでは、アイレベルは目のマークと赤い線で示されており、キャラクターを俯瞰して見る位置に設定されている。

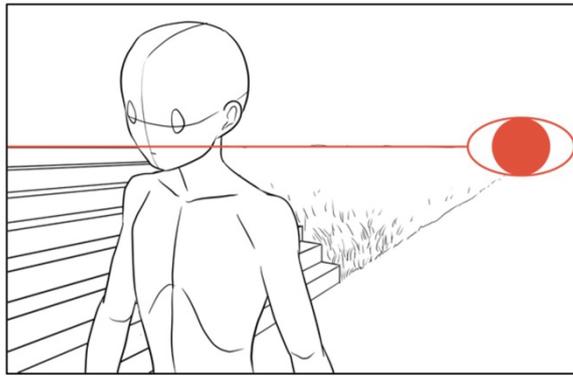


図 4背景とキャラクターの従うアイレベルのギャップ

背景と背景の従うアイレベルの位置はそのままに、キャラクターの位置だけを上げた。結果としてキャラクターの頭頂部が、顎を引いたように見えすぎており、キャラクターのサイズは変更していないにもかかわらず、キャラクターの背丈が大きくなったように見える。

## イラストの完成と今後

### 完成イラスト

図 5 は、高校生によって制作されたイラストの完成品の一部である。各生徒は、説明すべき内容のリストから自身が担当する項目を選択し、それぞれの場面を描いた。担当した高校生が 1～2 年生であることを踏まえると、これらのイラストは総じて高い完成度を示していた。制作されたイラストは、本年度末に完成予定の部活動地域指導者育成教材の動画内に編集される予定である。

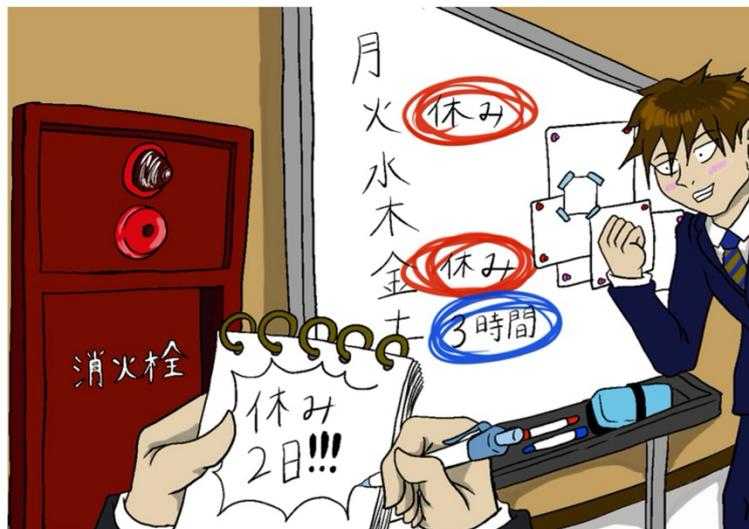


図 5大府東高校生の作品の一部

未成年であるため作者の氏名は匿名化している。掲載にあたり、本人より同意を得ている。

### 添削

2025 年 11 月 17 日には、イラスト制作への協力に対する謝意を示すとともに、事前に約束していた添削および講評を行うため、大府東高等学校を訪れた。本件が一つの区切りとなることを伝えたいうえで、今後も制作力を高められるよう、各生徒がどの点を意識し、どのような方法で訓練を継続すべきかについて助言した (図 6)。

多くの生徒は、約 6 か月前に制作した自身の作品に対し課題を自覚しており、作品の改善点を積極的に受け止める姿勢が見られた。これらの反応から、短期間での成長および自己評価の深化が確認された。



図 6 高校生に対する指導の様子

大府東高校文芸部および有志の生徒への指導の様子。大府東高校図書館内で撮影。

## 成果と今後の展望

本件の編集を担当する株式会社エルフィンからは、エンディング・クレジットにおける自社の位置付けを「協力」とするよう変更を求める申し出があった。これは、同社が部活動の地域展開に関する本学の教育活動を支持し、協働的立場を明確にしたい意向によるものと考えられる。

本件で制作されるアニメ版教材は、短時間で教育効果を高めることを目的とし、視覚的要素によって受講者の興味・関心を喚起するよう設計されている。本学の志願者には、小中学校教員免許を取得し、体育の教員や部活動指導者を志望する学生が多い。部活動の地域展開が進行するなかで、従来と同様の形態で部活動指導に携わることが難しくなる場合においても、本教材を活用して必要な知識を修得し、地域の部活動指導者としての公認取得に繋がることが期待される。

また、本教材の続編を制作する際には、大府東高等学校の生徒に対しても引き続き協力を依頼し、教育的支援を行うことで、高校生の制作能力向上に寄与したいと考えている。

部活動の地域展開は運動部のみならず、文芸部を含む文化部の生徒にも影響を及ぼす可能性がある。将来的に地域の部活動指導体制が広がることで、生徒が多様な指導者から学ぶ機会が拡大することが見込まれる。本件の取り組みが、良質な指導者の育成および選択肢の拡大に資するものとなることを期待する。

## 参考文献

- 1) Pekrun R (2024) Control-value theory: From achievement emotion to a general theory of human emotions. *Educational Psychology Review* 36: Article 83. <https://doi.org/10.1007/s10648-024-09909-7>

## 謝辞

本稿の教材制作にあたり、多大なご協力をいただいた大府東高等学校文芸部の生徒の皆様および、有志として参加された5名の生徒に深く感謝申し上げます。特に、イラスト制作に向けた講習への積極的な参加と、制作過程における真摯な取り組みは、本教材の質の向上に大きく寄与した。